

年金者部会ニュース

滋賀銀行
従業員組合
年金者部会
TEL077-521-2775
FAX077-525-5232

2019年11月11日~12日 秋の久住・九重の旅

大分・泉州・滋賀の年金者部会交流会



ザ ガンジー ホテル&リゾートの駐車場にて

19年11月11日、午後1時30分、集合場所の別府駅に

泉州、大分、滋賀の年金者部会（組合）から19人が集まりました。大分の仲間が企画してくださった「秋の久住（くじゅう）・九重（ここのえ）の旅」に参加の皆さんです。

大分駅をマイクロバスでスタートし、九酔溪を經由して**九重「夢」大吊橋**を訪ねました。



この橋は、2006年10月30日に開通され、長さ390m・高さ173m・幅1.5mの歩行者専用で、「日本の高さ」を誇る吊橋です。



橋を渡っていると、すぐ目前に、「日本の滝百選」にも選ばれた、「震動の滝・雄滝」や「雌滝」を望み、足下に筑後川の源流域を流れる鳴子川溪谷の原生林が広がり、秋の大自然を堪能

させてもらいました。また遠くに、三俣山や涌蓋山など雄大な「くじゅう連山」が横たわり、360度の大パノラマは、まさに「天空の散歩道」にふさわしい、文句なしの絶景です。



大分県では平成の大合併により町村数が47からわずか4に激減しましたが、九重町では他の自治体と合併せず「自律のまち」を目指しており、この橋は町の観光振興計画の柱となっているそうです。

この日は、飯田高原から「牧ノ戸峠」を経由して、午後5時に、宿泊場所の「ザ・ガンジーホテル&リゾート」に到着しました。

翌12日は9時にホテルを出発し、經由地の**久住展望台**にバスを止め、カルスト台地から阿蘇連山を望みました。



展望台から20分で**八丁原地****熱発電所**に到着し、はじめに地熱発電所の仕組みや発電能力が11万KWであり、年間8億7千KWで20万KLの石油が節約できることなど説明を受けました。

蒸気井の深さは最深3千m、浅いものでも760mもあり、



取り出した蒸気は、ダブルフラッシュシステムで2回使つて熱の有効活用をされているとのことでした。

水力、風力、太陽光、地熱など自然エネルギーを活用すれば、危険な原子力発電を止められる条件は十分あると思います。

発電所から13分で**タデ原湿原**につきました。

タデ原は、大分県玖珠郡九重町の長者原にある湿原「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」としてラムサール条約の登録湿地となっています。この湿原は「野焼き」によって湿原



環境が維持されており、その準備作業をされていきました。午後2時前に別府駅に到着し、元気に再会できることを誓いあい散会しました。(下)

際限ない年金引き下げNO! 若い人も高齢者も安心できる年金制度に

マクロ経済スライドは年金自動引き下げシステム

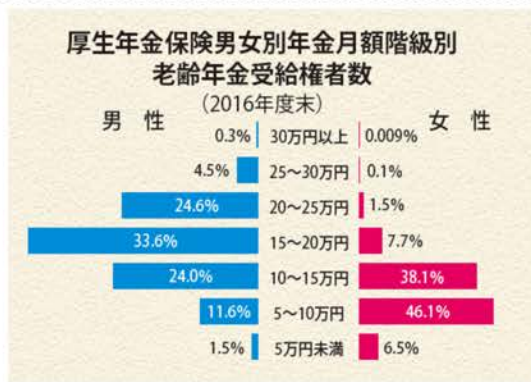
マクロ経済スライドは、年金を2040年代まで毎年下げ続け、物価が上がっても年金の実質価値を減らし続ける仕組みです。

景気後退で減額できなかった分は次年度以降に何年分でも繰越合算して減額する仕掛けまで導入し、実施しました。年金は高齢者・障害者の命綱、直ちに廃止すべきです。

減り続ける年金受給額 女性の低年金は深刻

年金が減り続ける中、高齢者の貧困が広がっています。40年間国民年金保険料を納め続けて、受け取る最高額が生活保護費の半分程度(6万5千円)です。特に女性の場合、結婚・出産・育児で被保険者期間に長い空白が生じ、老後にもらう厚生年金は微々たる額になってしまいます。月額

10万円未満の厚生年金受給者は、男性の13万8千人(13.1%)に対して女性は半数以上の259万人(52.6%)に達します。



最低保障年金制度の設立を 当面すべての高齢者に 月額3・3万円を!

国連・社会権規約委員会は「日本の高齢者、特に高齢女性の貧困の増大を懸念」し、繰り返し最低保障年金制度の

導入を日本に勧告、しかし政府はこれを拒否しています。税による社会的年金の国際調機関によると世界114カ国にある制度ですが、日本にはありません。全額国庫負担による最低保障年金の実現は、高齢者と働くすべての人の切実な願いです。

国民年金(基礎年金)額の半分は国庫負担です(満額で3・3万円)。左表のように、すべての高齢者に3・3万円を支給することで、無年金・低年金者をなくしましょう。

基礎年金受給額	増加額	受給額の変化
月4万円の方	1.3万円	5.3万円
月2万円の方	2.3万円	4.3万円
無年金の方	3.3万円	3.3万円

全日本年金者組合の年金署名より